

『重点要求』続き

重点要求⑤

中学校教育に大きな歪みをもたらしている「大阪府チャレンジテスト」に参加しないこと。また、中止を府教委に求めること。とりわけ、同テスト結果をもとに、強制的に個人の評定を変更させたり、中学校の評定範囲を決めたりすることについては、即刻中止するよう府教委に強く求めること。

重点要求⑥

「全国学力・学習状況調査」の中止を国や府教委に求めるとともに、同調査に参加しないこと。また、序列化につながる学校の正答率結果公表を行わないこと。

も無駄です。中止しかありません。

◆府教委が15年度から独自に導入した「チャレンジテスト」。

導入した初年度は、各教科の5段階評定が修正された中学一年生、二年生は年間延べ約2万人にのぼりました。

◆また、三年生では、「テスト」が行われない四教科（音楽・技術・保健・体育）の評定までもが「府平均の評定」に縛られます。

◆通称「全国学力テスト」とあわせて、子ども達や学校等を点数で縛り、競わせ教育を大変ゆがめています。◆また、かかる費用や時間

◆「過去問指導など『事前の特別な指導』をした小学校が5割を超える」との調査結果もあります。平均正答率を上げるために、本来の学校教育がゆがめられています。

◆「過去問指導など『事前の特別な指導』をした小学校が5割を超える」との調査結果もあります。平均正答率を上げるために、本来の学校教育がゆがめられています。

重点要求⑦

給食の安全と食育の充実の観点から、自校直営方式を守ること。民間委託校について、安全、質、コストについて検証すること。

◆災害時、自校直営給食であれば、調理員は炊き出しを含め被災者支援の行動に

重点要求⑧

紙代・コピー代・インク代などの消耗品費を増額し、PTA予算・学級費等で負担しないようにすること。

出ることができません。委託業者には「協力」を要請できても対応できるかどうかは疑問です。

◆義務教育は無償が原則です。

重点要求⑨

児童数減少を口実にした学校医統廃合や、小中一貫教育を口実にした学校統廃合をしないこと。小中一貫教育については教育的意義を検証すること。とりわけ、開校した施設一体型小中一貫校について、検証を行うこと。

◆2013年に行った大規模アンケートによると、小中一貫校に通う児童は、「自信が低い」「疲労感が

重点要求⑪

教科書採択実施にあたって、市教委は憲法と教育の条理にもとづく立場を堅持して臨むこと。とりわけ、現場の教職員の意見を反映させる、閲覧など市民からの意見を聞くなど、民主的な採択となるようにすること。

◆今年度は小学校、来年度は中学校の教科書改訂の時期です。

◆子ども達が見て学ぶ教科書に、発達を無視したり、歴史の事実をゆがめたりするものは要りません。



【その他のアンケートに寄せられた声】

◎現場の状況・声をしっかりと聞いてもらいたい。
◎教職員を増やし、音楽・体育・図工・外国語を完全に専科にしてほしい。
◎インターネット、Wi-Fiの充実。確実に使える環境にしてほしい。



強い」「友人関係が良好でない」傾向にありました。小学校高学年に特に否定的は影響が強く出ています。一緒にいる中学生と自分を比較することで小学校高学年の児童が自分に対する評価を低めているからだと考えられます。

重点要求⑩

府教委がすすめる「教職員の評価・育成システム」の撤回を市教委として求めること。とりわけ、賃金リンクについてはただちに撤回すること。

◆「システム」の「結果」

が07年からボーナスに反映され、08年から生涯にわたって影響のある昇給にまで反映され、今日に至っています。

◆「システム」撤回はもちろ

ろん、わずか1年の「評価」で昇給に格差ができ、その差が一生に及ぶ「賃金リンク」の撤回を直ちに求めます。

◆「システム」は教職員の協力・共同を壊し、教育にとって有害です。

◎非常勤講師が一律同じ金額というのが納得しにくい。勤務年数に合わせ

て上げて欲しいです。

◎休憩はいつ取ればいいのか？

◎教員免許更新制度廃止にしてほしい。なぜ教員だけ？

◎水泳記録会の日程を早めてほしい。

◎夏休みは8月31日までを続けてほしい。

◎2学期の始業式は9月最初のままにしてほしいです。

◎チャレンジテストの廃止。教育の自由の確保。

2019「先生のがっこう」第3回講座

11月9日（土）午後2時～午後4時

山口 妙子先生（おおさか教育相談研究所相談員等）

どの子も自分の力で立ち上がります

～不登校・登校拒否からの回復と成長～

教職員の生活と権利を守るため、泉北教組に加入しましょう